

佐賀中学校

「人間を大事に」

「自他ともに大切にすることができよう」

校長 宮崎 宏治

◆はじめに

本年度は、1年生18名、2年生16名、3年生16名、計50名の生徒たちと地域コーディネーター、学習支援員を含め18名の教職員でスタートしました。

さて、本校では長年に渡って「人間を大事に」自他ともに大切にすることが「できる」を学校教育目標に掲げ、人権・同和教育を基本に据えながら、さまざまな教育活動に取り組んできました。

また、2012年に内閣府が公表した南海トラフ地震の被害想定で全国最大級の34・4mの津波高が示されてからは、防災教育にも力を入れて取り組んでいます。

◆本校のめざす生徒像

子どもたちが生きる現代社会は、グローバル化の進展やAIの急速な発達など

によって、変化が激しく将来の予想が困難な時代と言われます。

こうした時代にあって、自らの幸福な人生をたくましく切り拓いていくために必要な力を子どもたち一人ひとりに育成すること、また、同時に将来の黒潮町を支える人材を育成することが求められています。こうしたことを踏まえ、本校では育成をめざす生徒像を次のように設定しています。

- ・学ぶ意欲を持ち、自ら考え行動できる生徒(学力向上)
- ・自他の違いを認め、他者を大切にできる生徒(確かな人権意識)
- ・ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する生徒(地域コミュニティの一員としての自覚)
- ・困難に負けず、最後までやり抜く生徒(チャレンジ精神、粘り強さ)

◆特色ある取組①

「地域とつながる活動」

本校では、佐中祭、お年寄り訪問など地域の方々

に触れ合う活動を長年実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で、ここ3年間は実施できていません。その間、これらの活動に代えて、防災活動を通して地域とつながる機会を持つようできています。ここでは1学期に実施した取組を一部ご紹介します。

【1年生ワクワク防災デー】

1年生は、今年度の総合的な学習の時間で地域防災について探究的な学習に取り組んでいます。6月22日(水)は、ワクワク防災デーと題して、荒神山避難道の清掃活動を行い、その後、浜町地区の河内区長さん、防災かかりがま士の会の皆さんと一緒に、炊き出し訓練、津波避難タワーの見学、毛布を使った簡易担架での搬送訓練、タワー7階からの降下器を使った降下訓練など、さまざまな体験を通して地域防災について理解を深めました。

また、荒神山避難道の清掃ボランティア活動は、昨年度生徒会防災委員会の呼

びかけで始まったもので、今年で2年目となります。生徒主体の地域貢献活動として今後も根づいていって欲しいと思います。



【3年生「あったかふれあいセンターさが」との交流】

3年生は、1年生の時から総合的な学習の時間を中心に、「あったかふれあいセンターさが」を利用しているお年寄りの皆さんとの交流を続けてきています。6月14日(火)は、合同避難訓練を予定していましたが、雨だったため合同交流会に内容を変更し、お年寄りの皆さんと防災クイズをしたり、卒業生が作成した「防災ソング」の振り付けやスト



レッチ体操を一緒に行いました。これまで交流を重ねているため顔見知りの方も多く、和やかな交流のひと時となりました。

◆特色ある取組②

「対話型授業研究」

本校では、生徒の学力向上を図るうえで基盤となる教員の授業力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいます。

「対話型授業」は、生徒が感じたことや考えたことを根拠を示しながら表現し合い、互いの意見を交流させていく授業です。6月28日(火)に、愛媛県美術館の鈴木さんを講師に招いて2年生の美術鑑賞の授業を行いました。生徒たちはスクリーンの絵をじっくりと見て、思ったことや感じたことを「どこからそう思ったか」根拠を示しながら発表しました。



大方中学校

夢・志の実現

～自立と挑戦～

校長 大塚 明人

◆はじめに

今年度の大方中学校は、1年生45名、2年生51名、3年生40名、合計136名で日々学び合っています。本校では、この4月から学校教育目標を新しくしました。

「夢・志の実現～自立と挑戦～」です。誰もが将来のなりたい自分を考えたり、新しい友だちと仲良くなりたいたいと思ったりと、それぞれの夢があります。生徒たちの夢が実現できるような願いも実現できるようにしたい、そういう場所でありたいという思いを込めています。その実現のためのキーワードは、「自立と挑戦」です。これは、本校の生徒たちの課題としてあげられたことを集約した言葉です。

- ・自立：自分で考えて、自分で決めて行動できること。
- ・挑戦：失敗をおそれずに一歩踏み出すこと。また、

失敗してもやり直そうとすること。

この1年間で、自立と挑戦を繰り返す中で、子どももおとなもそれぞれの夢や志の実現に近づいていけるようがんばります。

◆制服のこと

昨年度の生徒総会で「女子の制服にストラックスを取り入れてほしい」という意見が出されて、その後、制服検討委員会（PTA代表、生徒会執行部、教職員代表）での学習会や協議、各学級への説明などを経て、4月のPTA総会でも承認されて、制服の一部追加が決まりました。

・女子の制服

スカートとストラックスで選べるようにする。ストラックスは、色はグレーで夏用の生地もあります。また、ストレッツチ脇ゴム仕様なのでとても履きやすくなっています。

・夏服

カッターシャツとポロシャツで選べるようにする。カッターシャツは下着が透けて見えるなどの課題がありました。ポロシャツは、色は2色（紺・



白)から選べて、左胸に大方中と分かるロゴマーク入りです。ウエスト部分も中に入らずに外に出して着るタイプです。

この一連の取組を進める中では、生徒会執行部の生徒たちが中心となって、試着したり意見交換したり学級での説明をするなどして動いてきました。ジェンダーフリーの制服という視点でも、とても意義のあることとです。

◆部活動のこと

本校は、全員入部の部活動ではありませんが、全校生徒の約9割がどこかの部活動に所属して活動しています。文化系の部活動は吹奏楽部だけなので、約8割

の生徒は運動部活動です。また、本来所属している部の枠を越えて、全校の選抜メンバーで駅伝にも取り組んでいます。10月末の幡多地区駅伝大会に向けて練習に取り組んでいますので、こちらの応援もよろしくお願いたします。

指導に関わるメンバーも、顧問の教員の他に、バスケットボール部とソフトテニス部では町の雇用で外部指導者が関わり、サッカー部は大方高校の男子サッカー部の先生のご協力をいただいています。地域の皆様のご協力に感謝しています。

◆水曜日の活動の工夫

今年度は、部活動休養日である水曜日の校時を工夫して、次のことに取り組んでいます。

・生徒会活動の時間確保

生徒会活動を十分に定期的に行うために、月3回は終学活後に30分程度の生徒会活動のための時間を確保しています。

・教職員の研修時間確保

年間6回、講師を招いての授業研究を水曜日に行います。そのため、水曜日を5校時までで放課

として研修時間を多くとって、教職員が学び合うようにしています。

- ・会議・研修のない水曜日

月1回は、教職員の会議や研修のない水曜日を設定しています。生徒会活動の後、教職員が定時に退勤できる日を作るためです。多忙な中、1カ月の超過勤務時間が多い職員もいますので、部活動休養日にメリハリのあたる働き方を取り入れていきます。

◆2つの県指定事業の活用

本年度も「組織力向上推進事業」と「不登校支援推進プロジェクト事業」という高知県教育委員会の指定事業を活用して、取組を進めています。前者は、時間割に位置づけて行う教科会(同じ教科の複数教員での研修の時間)とタテ持ちの授業(1学年を2人の教員で分けて担当する授業)などです。後

者は、不登校への対応として、定数外の加配教員を配置してもらって取組を進めています。

